

海の哲学者「ジャック・マイヨール」

～人類が海へ還ることへの可能性を探った人生～

ジャック・マイヨール (Jacques Mayol) 1927～2001年
フリーダイバー、海洋冒険家

1927年に、フランス人建築家の二男として上海のフランス租界で生まれる。当時上海と長崎の間には定期航路があり、ジャックの一家は毎夏唐津の虹の松原で休暇を過ごした。

1937年、10歳の時に唐津の七ツ釜で初めてイルカに出会い、このことが彼の一生を左右する原体験となる。当時（昭和10年ごろ）虹の松原の中には外国人専用の木造のホテルがいくつかあり、リゾート地として賑わっていた。ジャックの一家は、「あずまやホテル」に逗留していた。

しかし1930年代後半になると戦雲がたちこめ、日本の軍国主義はすべての西欧的なものを排除していくようになり、一家で日本を訪れることはなくなった。

1971年、76メートルという驚異的な素潜りの記録を樹立し、その年に唐津を再訪し、ダイバーの高島篤志と出会う。

その20数年後、NHKのテレビ番組制作のためジャックは再び唐津を訪れ、高島氏と再会する。高島氏は今や有名なダイバーでありまた海洋写真家であるが、その後のジャックの唐津訪問のたびに付き添って一緒に行動し、潜っていた。

1976年、49歳の時、イタリア・エルバ島にて人類史上初めて素潜りで100メートルを超える記録をつくる。

1983年（55歳）、水深105mを達成し、以後6年間、この記録は破られなかった。

1988年、自伝をもとにした映画「グラン・ブルー」がリュック・ベッソンにより製作され、世界中の人にその存在を知られる。

2001年7月が最後の来唐となった。

同年12月、イタリア・エルバ島の自宅の部屋で自死しているのが発見される。

分野 人物

◎地図・写真・統計資料など



ジャック・マイヨール
(1927～2001)

(『唐津探訪』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆著作

『イルカと海に帰る日』
(原題：ホモ・デルフィナス 訳：関邦博)
『海の記憶を求めて』
(兄ピエールとの共著)
『イルカと、海に還る日』
(ピエール・マイヨール、
パトリック・ムートン著)

◆関連映画

『Blue Symphonyブルー
シンフォニージャック・
マイヨールの愛した海』
製作：産学共同映像研究所
有限責任事業組合/東京大学
/大学院情報学環/唐津市
2008年10月東京国際映画
祭招待作品

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html